

第5章

基本方針と展開

定山溪の観光魅力アップの目指す将来像の実現に向けて、以下の4つの基本方針を掲げます。

【定山溪の特性と強み】

- 支笏洞爺国立公園に立地する豊かな自然
- 札幌市街地から1時間圏内の都市型温泉観光地
- 高温で湯量も豊富な自然湧出源泉
- 泉質の異なる3つの温泉地の立地
- 2つの大規模なダムやダム湖を有する環境
- 老若男女が楽しめるさまざまなアクティビティ
- 新規出店による新しい需要の可能性

【観光魅力アップに向けた課題】

- ① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- ② 拠点性と周遊性の向上
- ③ 温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備
- ④ 温泉地らしいイメージの創出
- ⑤ 空き店舗や空き施設、空き地への対応
- ⑥ 国道拡幅に合わせたまちづくり
- ⑦ 定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化
- ⑧ 交通アクセスの充実や魅力強化
- ⑨ 定山溪の認知度の向上
- ⑩ 定山溪の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

■目指す将来像

湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季あそび—札幌定山溪

市民や観光客が嗜好に合わせてさまざまに楽しめるような、温泉を中心とした新しい価値と魅力をもつ札幌の温泉観光地を目指します。

■将来像の実現に向けた基本的な考え方

新・奥座敷へ

心安らぐ“温泉”× 心躍る“+α”のリゾート空間

■基本的方向性

温泉街としてのさらなる魅力向上

定山溪エリアとしての魅力創出

■基本方針

1. 温泉街らしさやにぎわいづくり
2. 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出
3. 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化
4. 魅力アップの担い手育成とマネジメント

1 温泉街らしさやにぎわいづくり

観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- 課題② 拠点性と周遊性の向上
- 課題③ 温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備
- 課題④ 温泉地らしいイメージの創出
- 課題⑤ 空き店舗や空き施設、空き地への対応
- 課題⑥ 国道拡幅に合わせたまちづくり

基本方針のねらい

定山溪の温泉施設や観光スポットなどの整備や維持管理に札幌市と地域が連携して取り組み、都市型温泉地としての美しい温泉街をつくります。また、国道230号や定山溪中央線を中心とした温泉街の空き地・空き店舗などの活用や新たな拠点の整備、外を歩きたくなるような演出や仕掛けにより、そぞろ歩きが楽しいにぎわいのある温泉街を創出し回遊性を高めます。

基本方針の方向性

1 温泉施設や観光スポットなどの環境整備

魅力的な温泉街としての景観を保ち、多くの観光客に訪れてもらうため、バリアフリーの観点も踏まえつつ、老朽化が進んでいる温泉施設や観光スポットなどの改修を行うとともに、安全で美しい環境を保つよう維持管理を行います。

また、定山溪を訪れた際に必ず立ち寄りたくなる新たな情報発信拠点を整備するとともに、そこを基点として国内外からの来訪者が気軽に観光スポットを訪れたり滞留したりできるように、散策路やサインなどの再整備・改修を進めます。

【主な取組】

- 温泉を楽しめる施設などの改修や温泉情緒を感じさせる演出
 - ・足湯、定山源泉公園などの改修
 - ・安全・安心で美しい環境を保つための温泉施設の整備・改修
 - ・温泉情緒を感じさせるような湯けむりなどの演出
- 定山溪の顔となる新たな拠点の創出
 - ・スポーツ公園にある駐車場を活用した集客交流拠点施設の整備
(インフォメーション機能、郷土資料展示、トイレ、駐車場などを想定)
- 散策路の再整備
(集客交流拠点施設～湯けむり坂～月見橋～二見公園～二見吊橋間)
- 集客交流拠点施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画策定
(二見公園及びトイレの再整備、散策路の環状化などの検討)

■ サインの整備・改修

- サインの改修(老朽化、多言語対応など)
- 歴史や自然などの説明サインや散策路の誘導サインの整備
- 温泉街入口のゲート機能の創出

2 美しい都市型温泉観光地としての景観形成

都市型温泉観光地としての景観的な魅力を高めるため、景観イメージの共通認識を地域とともに構築し、国道230号や定山溪中央線を軸とした一体感のある良好な景観形成に向けて、段階的に取組を進めます。

【主な取組】

■ 良好な街並みやにぎわいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定

■ 景観形成のための取組

- 国道230号における電線の地中化の検討
- 温泉街における「和」の雰囲気づくり
- 沿道への植栽
- 温泉街の清掃・草刈・除雪による街並みの整備

3 温泉街におけるにぎわいの創出

ホテル・土産店・飲食店などに立ち寄るなど、温泉街のそぞろ歩きを促進するため、実証実験及び検証を交えつつ取組を充実させ、にぎわいを創出します。

【主な取組】

■ 各ホテルを気軽に立ち寄ってもらうための仕掛け

- 各ホテルの一角を活用したマルシェの開催
- ホテルの土産店やトイレを誰でも気軽に利用できる工夫・発信

■ 温泉街を歩いてもらうための仕掛け

- 空き店舗・空き地などの活用や店舗の誘致促進
- 周遊を促すための定山溪ぶらり手形のさらなる活用や充実
- まち歩きガイドツアーなどのメニュー強化
- ライトアップや食の集客などによる夜の魅力向上

2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出

観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- 課題② 拠点性と周遊性の向上
- 課題⑦ 定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化
- 課題⑧ 交通アクセスの充実や魅力強化

基本方針のねらい

さまざまな楽しみ方ができるよう、食やアクティビティなどの新しい魅力を活用するとともに、それらの観光資源をつなぐ交通アクセスを含めたネットワーク構築の検討を官民が連携して行います。また既存のイベントを生かして広域的な取組に発展させ、新しいイメージと魅力を創出します。

基本方針の方向性

1 新しい魅力エリアの形成

定山溪温泉街から一足伸ばしたエリアには、パークゴルフやスキーが楽しめる三笠緑地や、ダム資料館や広場がある定山溪ダム下流園地など、活用できる観光資源がたくさんあります。また、石釜焼きのパン屋や崖の上に建つカフェなど、新しい魅力となる店舗の出店の動きもみられます。

これらの観光資源を活用して、食やイベントなどの新しい魅力を創出することにより、温泉街とは異なる魅力をもつエリアとして形成していきます。

【主な取組】

- パン屋やカフェなどの食の魅力スポットの観光資源としての活用
- 三笠緑地周辺での雪を活用した滞在メニューづくりなどの魅力創出

2 温泉街をハブ(拠点)とした周辺観光資源との回遊性向上

定山溪エリアには、自然や歴史・文化に触れることができる観光資源や、四季を通して楽しめるさまざまなアクティビティがあります。各ホテル・旅館では体験型メニューと併せた多様な宿泊プランに取り組んでいる施設もあります。

また、新たに「小金湯さくらの森」(平成28年供用開始予定)といった魅力的な観光資源も形成されつつあります。

このような周辺観光資源の利用促進や周遊性向上、定山溪エリアでの滞在時間の延長を図るため、札幌市の水道水源である豊平川などの自然環境に配慮しつつ、周辺観光資源との連携強化や活用促進に取り組めます。

さらに、温泉街と周辺観光資源を巡るアクセスの向上を検討します。

【主な取組】

- 周辺観光資源と連携したターゲットに応じた体験観光プランづくり
- アクティビティなどの周辺観光資源の情報集約と情報発信
- 周辺観光資源を巡る周遊バスやレンタサイクルの検討
- 「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート」の取組と連携した南区全体の観光魅力アップ

3 定山渓エリアまでの交通アクセスの魅力向上

市民や観光客、さらには海外からの観光客も快適に定山渓エリアまで行けるように、札幌中心部などからの交通アクセスの魅力を高めます。

さらに、定山渓鉄道の歴史や白川フルーツ街道などを活用して、定山渓までの移動も観光の魅力の一つとして創出し、さらなる集客を図ります。

【主な取組】

- 直行バス「かっぱライナー」の充実
- ガイドや歴史・食などの仕掛けによる定山渓までの移動の魅力向上
- 真駒内駅前地区のまちづくりに合わせた交通アクセスの魅力向上の検討

4 年間を通じた集客イベント事業の推進

定山渓で開催している四季に応じた集客イベントの充実を図るとともに、札幌市内の大型イベントとのコラボレーションなどを行います。

また、定山渓温泉は平成28年に開湯150周年を迎えます。この節目を、改めて定山渓エリアの魅力を知ってもらおうきっかけとして、150周年イベントや前年のプレイベントを開催します。

【主な取組】

- 既存の春夏秋冬の各イベントの充実
- 開湯150周年イベントやプレイベントの実施及び記念誌制作
- 市内大型イベントとのコラボレーション

3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化

観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- 課題⑦ 定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化
- 課題⑨ 定山溪の認知度の向上

基本方針のねらい

温泉をはじめとした定山溪エリアのさまざまな魅力を発信し、さらなる集客に繋げるため、温泉街や周辺観光資源の魅力を高めるとともに、それらの情報について、利用者の行動過程の中で、どのような観光情報をどのタイミングで必要としているかを踏まえ、ターゲットに合わせた情報発信・プロモーションを展開します。

「行ってみたい」から「定山溪だから行きたい」、そして「定山溪に行って楽しい」となるようなプロモーションを行います。

基本方針の方向性

1 知名度アップ及びイメージ構築

開湯150周年を一つの契機として、体験観光など、エリアとしての滞在型観光資源の充実、主要観光地とのアクセスのよさを生かし、北海道内の他の温泉地との差別化や知名度アップ、イメージの再構築のためのプロモーションを行っていきます。

また、海外に対しては、紅葉、雪、神社、浴衣など、「和」のイメージも活用し、情報発信を行います。

【主な取組】

- 首都圏や関西圏を主なターゲットとした商談会や物産展でのPR
- 東南アジアなど海外の有望市場への「和」のイメージを使ったプロモーション
- 定山溪温泉PR隊長「かつぼん」の活用
- ツール多言語化(パンフレットなど)

2 観光行動を促す動機づけ

定山溪の認知度向上のほか、ターゲットに合わせて、新聞・テレビ・雑誌などのマスメディア、WEBやSNSを効果的に活用し、定山溪への観光行動を促すさまざまなアプローチによる多面的なプロモーションを実施します。

【主な取組】

- 世代や目的などのターゲットに応じた媒体などを活用した情報発信
- ターゲットや利用目的別の過ごし方の提案

目的別(温泉目的、食事目的、健康目的、水遊び目的、森遊び目的など)
季節別(春紅葉、新緑、紅葉、ウィンタースポーツなど)
世代別(若者、女子旅、ファミリー、高齢者、三世代、職場旅行など)
対象マーケット別(市民、道内、道外、海外)

3 到着後のサポート

定山渓エリアの魅力やアクセスなどについて情報を集約・発信するとともに、来訪者が到着後にリアルタイムな情報を入手し、魅力をより深く知ることができるよう、観光案内所の機能強化を図ります。

さらに、インフォメーション機能を備えた集客交流拠点施設の整備に併せて、まち歩きや体験活動の拠点機能を高めます。

【主な取組】

- ワンストップ窓口としての観光案内所の整備と機能強化
- まち歩きや体験活動の発着地としての拠点化

4 魅力アップの担い手育成とマネジメント

観光魅力アップに向けた課題

課題⑩ 定山溪の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

基本方針のねらい

定山溪に興味・関心をもつ機会を増やすことで、地域住民はもとより札幌市民全体に「私たちの温泉地・定山溪」という意識を醸成するとともに、定山溪に愛着をもって応援し続けてくれる観光客を増やします。

さらに、定山溪の各観光資源の魅力向上やイベント実施、それらの情報発信などに関する担い手を発掘・育成し、継続的に魅力アップを推進します。

また、エリア全体としてのマネジメントについても推進します。

基本方針の方向性

1 おもてなしを支える人材育成

定山溪の観光魅力アップやおもてなしのサービスを支える人材を育成し、観光客を受け入れる体制の底上げを図ります。

また、さまざまな関わりを通じて、定山溪の次代の担い手を発掘し、育成していきます。

【主な取組】

- 観光案内所を活用したホテル従業員への講習や研修の充実
- 観光関係者が一体となった温泉街の草刈などの環境美化活動の推進
- 地域住民やホテル従業員による観光ボランティアの育成

2 定山溪ファンやサポーターづくり

観光資源やイベントの体験機会の増加、情報発信の工夫などを通じて、子どもや学生、観光客などを含めた幅広い定山溪ファンづくりを行います。

また、定山溪への愛着をもって、観光関係者や地域住民と一緒に、魅力向上に取り組むサポーターを育てていきます。

【主な取組】

- 市内の児童生徒、教員を対象にした体験学習の推進
- SNSなどを活用した定山溪ファンづくり
- 市内高校生や大学生などによるイベント協力の体制づくり

3 エリアマネジメントの推進

一般社団法人定山溪観光協会を中心とした観光振興の充実を図るとともに、空き店舗の有効活用やイベントによるまちおこしなど、まちづくりの視点からは、将来的な移住や二地域居住を見据えつつ、定山溪のエリアとして持続性のあるマネジメントも必要となります。

そのため、地域住民や事業者などによるエリアマネジメント機能をもった組織の在り方を検討します。

【主な取組】

- 一般社団法人定山溪観光協会の体制及び機能の強化
- エリアマネジメント組織の在り方検討

【基本方針の展開図 定山溪エリア】

